

鈴木芳徳先生定年退職記念号に寄せて

経済学部長 戸田 壯一

鈴木芳徳先生は、2007年3月31日付をもって本学を定年後退職されました。

先生は、九州大学を卒業後、九州大学大学院経済学研究科に進学されました。大学院を修了された後、1965年9月に本学の経済学部専任講師と着任されました。それ以来41年7ヶ月にわたって経済学部の教育研究のためにご尽力されてこられました。その間先生は、九州大学から経済学博士の学位を取得されています。本学での先生のご担当は証券市場論、金融論、ゼミナール等でありました。

教育面では、授業科目はもとよりゼミナールも多くの学生の人気を博していました。ちなみに先生のゼミの卒業生数は、800人を上回っています。2007年2月に行われた先生の退職記念講演会には、多くのゼミ卒業生が全国から集い盛会のうちに終わりました。最初のゼミの卒業生の中には、第二の人生を歩み出されている方がおられます。

また、先生は若干32歳で教務部長に就任され、その後、経済学科主任、評議会評議委員、情報処理センター所長、経済学部長兼第二経済学部長、大学理事さらには大学常務理事を歴任されました。特に、常務理事を6年間勤められ、役職者として神奈川大学や経済学部のために多大のご尽力をされてこられました。

学会活動としては、証券経済学会代表理事、金融学会理事、日本学術会議財政・金融論研究連絡委員会委員さらに日本学術会議経済制度研究連絡委員会委員などを歴任され、広く学会をリードされてきました。その他に、先生は文部科学省私大等研究設備整備補助金選定委員会委員を歴任されるなど、幅広く社会的活動にもコミットされてきました。

先生は数年前に体調を崩されましたが、その後順調に回復されました。お会いするたびに研究・勉学を含めて様々な分野でのお話を聞かせていただき、そのたびに非常に多くの知的刺激を受けることが出来ました。先生の講義での話やゼミでの話が非常に上手であるということをよく耳にしました。そのことについて先生にお尋ねしたところ、「昔から私は落語が好きでね」と、おっしゃられたことがありました。先生が聞かせ上手だというのは、落語から来ているのだ、と思わず感じ入った幸いです。先生のご研究の根源には若い頃の「哲学や学説史の研究」と「落語」があり、それが先生の幅広い知識と機知にとんだお話につながっているのではと思います。先生は、古典に対する深い理解にくわえ、証券・金融面での具体的・個別的なものの徹底した研究を一貫して進めてこられました。ご定年とはいえ軽妙洒脱で温厚なお人柄の先生の訶咳に接する機会が少なくなったことは誠に残念です。しかし、これからも先生が健康に恵まれ、益々お元氣でご研究を続けられてご活躍くださいますよう心からお祈り申し上げます。